

## 【なるほどね！ここがすごい！ケアプロ！～ケアプロ留学を通して見たこと～】

慶應義塾大学看護医療学部

城戸真和子、小瀬良唯

増山翔子、三澤紋子

文責：小瀬良唯

「革新的なヘルスケアサービスをプロデュースするケアプロ」。

慶應義塾看護医療学部1期生、川添高志さんが2007年に起業したケアプロ株式会社は、今や、数々のテレビ番組や、新聞、雑誌で取り上げられ、世間の注目を浴びています。

自分が将来進むべき道を考える途上にある私たちは、春休みに様々な現場を見て感じて考えようということで、今回は大先輩、川添さんに依頼し、ケアプロ留学をさせていただきました！

社会はなぜそれほどまでに、ケアプロに注目し、協力するのか。

今回、の留学を通して、自分なりにその答えを見つけました！



ケアプロの皆様と

## 1. 何が問題？ケアプロが注目する社会の課題とは

- ◇2025年には54兆円に達する医療費、そのうち「10兆円」は生活習慣病に関連している。
- ◇全国で「3,300万人」が1年以内に健康診断を受けていない。
- ◇医療費削減を目的とした病床数削減によって、2060年までに1600万人に上るとの試算のある、看取り難民（必要な医療処置を受けられないまま亡くなる人）

これらの問題を解決しようとケアプロが展開する、革新的な「予防医療事業」「在宅医療事業」について学びました。



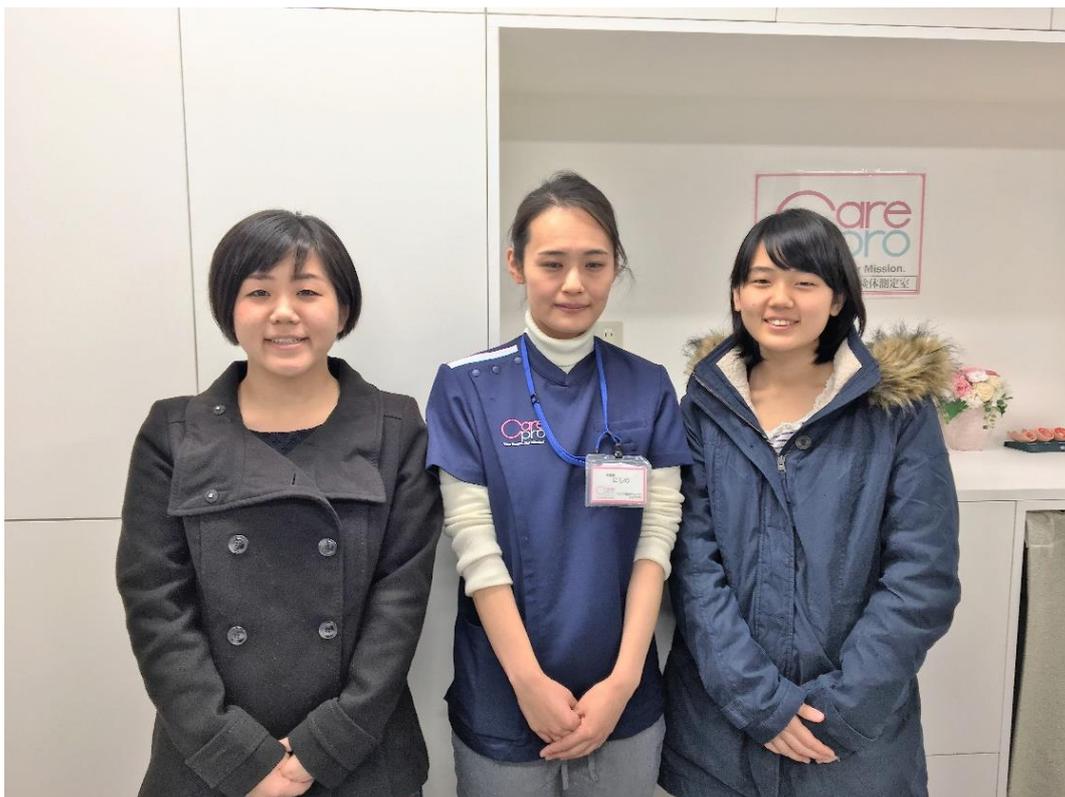
在宅医療事業部長前田さんと

## 2、予防医療事業について

予防医療事業部長、落合拓史さんにお話しをうかがい、体験もさせていただきました！



予防医療事業部長、落合さんと



ケアプロスタッフ、看護師西野さんと

◆ 予防医療事業が焦点を当てる課題とは

- ◇2025年には54兆円に達する医療費、そのうち「10兆円」は生活習慣病に関連している。
  - ◇全国で「3,300万人」が1年以内に健康診断を受けていない。
- という課題解決を目的に展開されている事業。

◆ セルフ健康チェック??

予防医療事業の核はセルフ健康チェック。それはいったいどんなものなか、、、  
街角で簡単に健康チェックをしてくれるものです。  
検査項目は骨密度、血管年齢、肺年齢、体内年齢、中性脂肪、、などなど、豊富なメニューが取り揃えられていました。

セルフ健康チェックの最大の目的は、  
自分の健康状態に「気づき」を与えること。  
これを通して、  
自分の健康状態について、  
「考える」→「検査する」→「気づく」→「行動する」→「考える」というケアプロの健康サイクルを回し、誰でも当たり前健康になれる世の中の実現を目指しているとのこと。



実際に体験させていただきました！！

結果が出るのがはやい、はやい！実際に利用しにくるお客さんとしても、  
「健康診断を受ける機会がない」、「病院に行くのはハードルが高い」、「病院の待ち時間がいや」などといった気持ちを持った方が大半を占めているようで、気軽に健康チェックができるということがやはり最大の魅力のようです。

結果はその都度、「ケアプロカード」に記入していただき、簡単に管理できます。  
そして、「ケアプロ応援 BOOK」というものを受け取って、そこに数値の見方、健康情報が詳しく書かれていました。



ケアプロカードに記入



健康応援 BOOK によるサポート

## ◆店舗の特徴

### ◇中野店

BROADWAYの一角にある中野店。

中野は自営業者の町です。

ターゲットは健康診断を受ける機会が自然と少なくなってしまう自営業者。

客層40～70代。平均年齢60歳。

男：女＝3：7

実際は、ケアプロの噂を聞きつけた遠方からの利用者が多いとのこと。

中野区民は全体の4分の1。リピーターが多いとのことでした。

### ◇登戸店

登戸店は、小田急改札をでたら、目の前にあります。

1日14万人以上の利用者がある、小田急の駅の中でも利用者数が多い駅です。

そのため、幅広い年齢層の方々が来られるとのこと。

そして登戸店では血液検査以外の項目を検査する方が多いという特徴もあるそうです。

質問に答えてくださった、西野看護師は、「ここにいると、病院では出会えない方々に出会えて楽しい。

また、違ったバックグラウンドを持つ人とはたらくことで、様々な気づきが得られる。もともと予防医療に興味があったこともあり、ここではそれが出来ていると実感できる。」といわれていました。

## ◆全国各地に出張事業

店舗はこの2か所ですが、

ケアプロは全国各地に出張して、健康チェックを提供しています。

その需要のほうが高い現状もあるとのことでした。

自分の健康状態に対する『気づき』を得る機会をいかに社会が必要としているかということがわかります！

10兆円の医療費が削れるとなると、注目せざるを得ません。

### 3、在宅、訪問看護事業

在宅医療事業部長、前田和哉さんにお話しをうかがいました！



在宅医療事業部長、前田さんと



◆ケアプロ訪問看護ステーション東京が焦点を当てる課題とは

◇医療費削減を目的とした病床数削減によって、2060年までに1600万人に上るとの試算のある、看取り難民

現在、人が最後を迎える場所の割合は、病院73%に対して、自宅13%。

自宅で最後をむかえたいと願う人は増えているにも関わらずこの現状です。

医療費の削減に伴って病床は20万床削減される見込みのある今も、看取り難民は約50万人います。

2060年までの試算だと1600万人にもなるとされる、看取り難民問題に焦点を当てています。

「全てのひとが望んだ最後を迎える」、「利用者さんに心から向き合う」という前田事業部長の理念のもと展開されています。

◆ケアプロ訪問看護ステーション東京が目標としていることは？

ケアプロは2020年看取り難民30万人救うこと。

そのために必要なことは、新人看護師の教育育成。

新卒・新人訪問看護師の教育育成に力を入れているケアプロの教育成功法が詳しく記載された、

「ケアプロ式新卒・新人訪問看護師教育プログラム」が2017年1月に出版されています！

若い力を利用したサービスが最大の強みです！

◆若いからこそできること

◇24時間365日営業

若いからこそ、生活の自由がきき、体力もあるので夜勤も可能です。

それに伴う、重症患者への対応が、患者の社会復帰の支援も可能としています。

◇ITを活用して残業ゼロ！？

訪問看護ステーション職員は50歳ほどの病棟勤務を終えた看護師が多い。そのため、IT化が遅れています。実際に、訪問看護のカルテは7割が紙使用しており、生産性が低いのが現状。

そのような中、新卒訪問看護師採用に力を入れているケアプロは職員に一人1台ずつiPhoneとマックのパソコンを提供して有効活用しています。

これによって、カルテは電子化でき、生産性が高くなっています。

残業ゼロの秘訣です。

◆新卒訪問看護師を増やすために！

現状として、新卒看護師の意識調査で 20%が訪問看護を希望しているとの調査結果を提示して下さいました。しかし実際には 2%しか就職していない。

原因の一つとして、情報不足があげられます。

そこでケアプロは

「CAN GO」というサイトを立ちあげて、新卒看護師の訪問看護ステーション就職を手助けしています！

◆株式会社だからこそできること

一つできれば、一つつぶれるという厳しい現状のある訪問ステーション業界。

株式会社だからこそ、安定した営業ができ、人材も安定しています。

◆現在、駆け出しで、取り組んでいること

◇新しく訪問看護ステーションを立ち上げるときのコンサルティング

実際に、島根県雲南市の訪問看護ステーション、「コミケア」の立ち上げをサポートし成功しています。

◇看護師のケアマネージャーの資格の取得

介護士も取得可能ですが、看護師が取得することによって医療的処置を含めたケアプランが提案できることが強みです。

◇病院と提携して、病院と患者をつなぐ。

介護士は病院との距離がどうしても遠くなるために、看護師が間に立つことで、連携がとりやすくなります。

◆今後のビジョン

訪問看護ステーションの大規模多機能化。

私たちが授業で学んだ、アメリカの訪問看護のようです。

実現のために、既存の大規模な訪問看護ステーションと交流をして手を組むといったことも考えられています。

点在する訪問看護ステーションの連携などがよくうたわれませんが、実際は、連携体制を整えるより、法人化し、一つの企業として大規模化を目指す方がコミュニケーションコスト削減につながるのメリットがあると学びました。

授業で学んだ、理想の訪問看護ステーションの形を目指していることに感動しました。

今後の日本にまさに必要なことに取り組んでいるといった印象をうけます。

### 3、ケアプロ社長、川添高志さんにインタビュー！

最後は、ケアプロ社長である、川添さんとお話しさせていただきました！

川添さんは、私たちが聞きたいこと悩んでいることをじっくり探ってください、ケアプロのことだけでなく今後の人生に必要なことを多岐にわたってざっくばらんに話してくださいました。本当に素晴らしい先輩をもてたことを心から光栄に思います！

### 4、私たちが見つけた、ケアプロが人の心を動かす理由

今回の「ケアプロ留学」を通して  
世間が注目する「革新的なヘルスサービス」がよく理解できました。  
ケアプロがきらきらと輝き、人々を魅了する根源は何なのか。  
考えに考えて、ようやく見つかった答え。

「自分たちが提供しているサービスに、ケアプロが『確固たる自信』をもっている」ということ。

「確固たる自信」、それは簡単にもてるものではありません。  
ケアプロは、社会が必要としていることを真剣に探り、それに対して自分たちは何をすべきなのかを本気で考え、提供しているからこそ、確固たる自信をもてるのだと思います。

人は、物事に真剣に向き合う人の意見は信用し、自ら協力しようと思うものです。  
今回、私がケアプロに心動かされた真の理由は、「ケアプロの自信」でした。  
ケアプロによって、社会は動かされ、大きく変革を遂げることは間違いないと学生ながらに確信がもてました。  
私たちも、自分がすべきことを常に自分に問うて、人生の答えをみつけていきたいです。

特別プログラムを組んでくださった、川添社長、  
多くの気付きと学びを与えて下さったケアプロの皆様、  
依頼に協力して下さった、小池先生に心から感謝いたします。  
本当に、ありがとうございました。

2017年5月